

令和3年11月3日

東京都千代田区四番町5番地3
科学技術振興機構（JST）
Tel：03-5214-8404（広報課）
URL <https://www.jst.go.jp>

第3回輝く女性研究者賞（ジュン アシダ賞） 受賞者の決定と表彰式開催について

JST（理事長 濱口 道成）は、第3回輝く女性研究者賞（ジュン アシダ賞）の受賞者を決定しました（別紙1）。表彰式は、令和3年11月3日（水・祝）に日本科学未来館で開催します。

JSTはダイバーシティを推進する取り組みの1つとして、女性研究者の活躍を推進しています。日本では研究者に占める女性の割合がいまだに低く、研究開発プログラムなどへの女性研究者の参画も少ない状況にあります。そこで令和元年度、持続的な社会と未来に貢献する優れた研究などを行っている女性研究者、および女性研究者の活躍を推進している機関を表彰する輝く女性研究者賞（ジュン アシダ賞）を創設しました。

第3回となる本年度は令和3年4月1日から6月30日までの期間に募集し、外部有識者からなる選考委員会による審査を経て（別紙2）、輝く女性研究者賞（ジュン アシダ賞）1人、輝く女性研究者活躍推進賞（ジュン アシダ賞）1機関の受賞者を決定しました。

また、同選考委員会において輝く女性研究者賞にふさわしい応募者が他にもいたことから、輝く女性研究者賞（科学技術振興機構理事長賞）2人の受賞者を決定しました。

表彰式では、受賞者を当日発表し、JSTから各受賞者に賞状と賞牌を授与するほか、輝く女性研究者賞（ジュン アシダ賞）受賞者には副賞として芦田基金[※]から賞金100万円が贈られます。また、受賞者、デザイナーの芦田 多恵 氏および濱口 理事長によるトークセッションも行います。

<第3回輝く女性研究者賞（ジュン アシダ賞）表彰式・トークセッション>

日時：令和3年11月3日（水・祝）午後1時00分～午後3時30分

※）芦田基金は、平成6年にデザイナーの故 芦田 淳 氏が、青少年育成を目的として公益社団法人科学技術国際交流センター（J I S T E C）に寄附し設立された基金です。

<添付資料>

別紙1：第3回輝く女性研究者賞（ジュン アシダ賞）受賞者

別紙2：輝く女性研究者賞選考委員会 委員一覧

<お問い合わせ先>

科学技術振興機構 科学技術イノベーション人材育成部 ダイバーシティ推進室

〒102-8666 東京都千代田区四番町5番地3

加藤 修 (カトウ オサム)

Tel : 03-5214-8443

E-mail : diversity[at]jst.go.jp

第3回輝く女性研究者賞（ジュン アシダ賞）受賞者

（敬称略）

○輝く女性研究者賞（ジュン アシダ賞）

JSTから賞状および賞牌を授与。副賞として芦田基金から賞金100万円を贈呈。

佐々田 槇子（ササダ マキコ） 東京大学 大学院数理科学研究科 准教授

＜専門分野＞

数理科学（確率論）

＜経歴＞

2011年 慶應義塾大学 理工学部 数理科学科 助教

2014年 慶應義塾大学 理工学部 数理科学科 専任講師

2015年 東京大学 大学院数理科学研究科 准教授

＜受賞理由＞

佐々田氏は、一見統計物理や確率論と無関係の代数学や幾何学理論を用い、原子や分子などで構成される系が従うミクロ法則から温度や密度など系のマクロな振る舞いを説明する、新しい理論の構築を行っている。

研究以外の社会貢献においても、ホームページ「数理女子」の開設や確率論の動画公開、講演会などのアウトリーチ活動を積極的に行っている。また、国際数学連合のCWM（Committee for Women in Mathematics）のアンバサダーを務めるなど、数理科学分野の女性の育成に尽力している。

○輝く女性研究者活躍推進賞（ジュン アシダ賞）

JSTから賞状および賞牌を授与。

東海国立大学機構 名古屋大学（総長 松尾 清一）

＜受賞理由＞

名古屋大学は、女性限定の教員公募、学内保育所に加え全国初の大学内常設型学童保育所の設置、女性研究者トップリーダー顕彰、両立支援のための研究支援員の配置、学内の最高意思決定機関（教育研究評議会）での女性評議員比率2割以上など、さまざまな特長ある取り組みによって確実に成果を挙げ、他機関のモデルとなり得る。

また、平成27年にはUN Women（国連女性機関）の「HeForShe」事業を主導する世界のトップ10大学として日本から唯一選出されている。その後も積極的な活動を展開しており、「輝く女性研究者活躍推進」をけん引する大学としてふさわしい。

○輝く女性研究者賞（科学技術振興機構理事長賞）

JSTから賞状および賞牌を授与。

飯間 麻美（イイマ マミ） 京都大学医学部附属病院 先端医療研究開発機構・放射線
診断科 助教

<専門分野>

生命科学／放射線科学

<経歴>

2006年 関西電力病院 初期臨床研修
2010年 京都大学 大学院医学研究科 放射線医学講座 博士課程
2011年 フランス ニューロスピン（超高磁場MRI研究所）留学
2013年 日本学術振興会 特別研究員
2018年 京都大学 医学部附属病院 放射線診断科 特定病院助教
2019年 同 臨床研究総合センター・放射線診断科 助教
2020年 同 先端医療研究開発機構・放射線診断科 助教

<受賞理由>

飯間氏は、造影剤を使用しない非侵襲的な拡散強調MRIを用いて、組織の微小灌流を評価できる定量値（IVIM）を始めとするさまざまな画像の情報を新たに抽出して活用することにより、身体に負担のない安全で新たながんの画像診断法を開発した。治療法の選択や治療効果、予後の予測に役立てることを目指し、臨床と基礎をつなぐ研究者としての活躍が目覚ましい。

研究以外の社会貢献においても、関連分野の国際ワーキンググループ創設など世界へ向け発信するとともに、国内外の研究者の交流活動の促進や後進の育成にも力を注いでいる。

神谷 真子（カミヤ マコ） 東京大学 大学院医学系研究科 准教授

<専門分野>

生物有機化学

<経歴>

2008年 日本学術振興会 特別研究員SPD
2010年 東京大学 大学院医学系研究科 助教
2014年 科学技術振興機構 さきがけ研究員（兼任）
2016年 東京大学 大学院医学系研究科 講師
2019年 東京大学 大学院医学系研究科 准教授

<受賞理由>

神谷氏は、化学に基づく独自の分子設計法により、有機色素を論理的に機能化し、画期的なイメージングを実現し得る蛍光プローブとラマンプローブの開発を行っている。近年では多数の標的分子を同時検出できるラマンイメージングのプローブを開発するなど、独創性が高い研究を行っている。

研究以外の社会貢献においても、後進の育成に積極的に取り組むとともに、一般に向けて科学の面白さを伝える活動などにも力を入れている。

輝く女性研究者賞選考委員会 委員一覧

(敬称略、委員は五十音順)

(委員長)

鳥居 啓子	テキサス大学オースティン校 ジョンソン・エンド・ジョンソン センテニアル冠教授、ハワードヒューズ医学研究所 正研究員
-------	--

(委員)

浅川 智恵子	日本科学未来館 館長、IBMフェロー
阿部 玲子	株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル インド現地法人 取締役会長
大草 芳江	特定非営利活動法人natural science 理事、有限会社FIELD AND NETWORK 取締役
北川 宏	京都大学 大学院理学研究科 教授
所 千晴	早稲田大学 理工学術院創造理工学部 教授、東京大学 大学院工学系研究科 システム創成学専攻 教授
村山 斉	カリフォルニア大学バークレー校 MacAdams冠教授、東京大学 国際高等研究所 カブリ数物連携宇宙研究機構 主任研究者／教授
柳沢 正史	筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構 機構長

(令和3年10月27日現在)